第 235 回　東京都板橋区、西東京市、及び東大和市の覚鑁上人像（その１）

筆者：林　久治（記載：2023 年 5 月 10 日）

（１）前書き

私（筆者の林）は Random Walks （乱歩）という題名で偏屈老人（林久治）の気侭な紀行文のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団（１）のサイト/）の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいるので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要不可欠である。昨年の 7 月は、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、大阪在住の３人の孫達は夏休み前に感染したが軽症であった。そこで、私は９月初旬に大阪に行き、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってからも、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、２）のサイト/f から閲覧出来ます。

私は 3 月 21 日から 31 日まで、大阪に滞在し孫達の世話をした。その間に、銅像探索も少しは出来た。227 回の記事/f では、その中から大阪市の弘世像の探索記を記載した。228 回の記事/f では、茨木市の奥田光像の探索記を記載した。229 回の記事/f では、京都市の田辺朔郎像の探索記を記載した。230 回の記事/f では、大阪市中央区の林市蔵像の探索記を記載した。

私は 4 月 28 日に台場にある海上保安庁海洋情報部の海洋情報資料館にある柳楢悦像と港区大門の日赤本社にある佐野常民像とアンリー・デュナン像を探索し、それらの探索記を前回の記事/f に記載した。私は 4 月 22 日は板橋区で日晨上人像を探索し、その探索記をを 233 回の記事/f に記載した。その日に私は、近くの安楽寺にも寄り、そこの覚鑁上人像を探索した。

覚鑁上人像は関東地方に沢山あるが、都内では西東京市の総持寺や東大和市の円乗院にあるので、5 月 5 日に両像を探索した。これら 3 基の覚鑁上人像は１）のサイト/に収録されていない。本稿は以上の３像の探索記である。なお、本稿では私の意見などを青文字で、資料の内容などを緑文字で記載する。

（２）板橋区安楽寺の覚鑁上人像

次ページの図１上に、板橋区安楽寺（板橋区徳丸 8-9-1、以後は本寺と書く）の周辺地図とバス路線を示す。本寺は鉄道の駅より遠いので、バス路線を利用すると便利である。各駅からのバス路線は次の通りである（３）のサイト/f）。

①東武東上線東武練馬駅：国際興業バスの東練 01 路線（浮間舟渡駅行き）「徳丸六」

②都営三田線高島平駅：国際興業バスの東練 01 路線（東武練馬駅行き）「徳丸六」
③東武東上線成増駅：国際興業バスの赤 02 路線（赤羽駅西口行き）「紅梅小学校」
なお、以上の３路線の運行は頻繁である。（本文は、４ページに続く。）

図１．上左：板橋区安楽寺の周辺地図、上右：安楽寺付近のバス路線、①：安楽寺、本図は、３）のサイト/f より借用。下：安楽寺の山門。

図２.

上：安楽寺の本堂前、

下左：興教大師覚鑁上人像、

下右：本像台座正面の題字。

図１下に本寺の山門を、図２上に本寺本堂を示す。本堂前には２基の銅像があった。向かって右側が弘法大師像で、左側が興教大師覚鑁上人像である。なお、弘法大師像は全国の多くの寺院に設置されているので、本稿では紹介の対象外とする。４）のサイト/1には、当寺の略歴が書かれている。その内容は、「覚鑁上人立像（板橋区）」欄に記載する。

ただし、本寺が属する真言宗智山派については、ウィキペディアに次の記載がある。

真言宗智山派（しんごんしゅうちさんは）は、日本における仏教の宗派の一つ。弘法大師空海を始祖とし、真言宗中興の祖・興教大師覚鑁（1095 － 1144）を開祖とする新義真言宗と呼ばれる宗派の中の一つ。天正５年（1577）に根来山の能化職となった玄宥（1529 － 1605）が、天正 13 年（1585）、秀吉による紀州征伐で焼き滅ぼされた根来山智積院を、慶長６年（1601）、徳川家康の許可を受け寺領（京都東山の豊国神社付属寺院の土地建物）を拝受し復興させたことを端緒に創建されることとなった宗派である。

図２下左には興教大師覚鑁上人立像を、図２下右には本像台座正面の題字を示す。題字には「南無興教大師」と書かれていた。

興教大師覚鑁上人の経歴は多くの記事に記載されている。その主な物は以下の通りである：ウィキペディア、５）のサイト/m、６）のサイト/、７）のサイト/l。これらにより、覚鑁上人の略歴は次の通りである。

興教大師覚鑁（こうぎょうだいしかくばん、1095-1144）上人は真言宗中興の祖。新義真言宗の教義を根付かせ、現在の新義真言宗（根来寺派）、真言宗豊山派（長谷寺）、智山派（智積院）の基礎となった。嘉保２年(1095)現在の佐賀県鹿島市に誕生。13 歳の時入京。仁和寺に於いて得度。修学修行を積まれ 20 歳にして高野山に登嶺。弘法大師を崇敬、大師の歩まれた道を範として刻苦勉励日夜を分かたず精進研鑽、その学徳並ぶものなしと言われた。高野山を再興し、大師教学を振興した功績は誠に大。根来山に於いて 49 歳を以って入滅。1690 年、東山天皇より興数大師と諡名賜る。

私の出身地である徳島県には、真言宗の寺院が沢山ある。これらの寺院で、私は弘法大師像をよく見たが、興教大師像は見たことが無かった。上記の略歴では、覚鑁上人は「真言宗中興の祖」と呼ばれているが、それは宗派の内部だけのようだ。上人は高野山で改革運動を行ったが、賛成派ばかりではなく、反対派も少なくなかったようだ。結局、上人は高野山から退散して、根来寺を活動の中心としたのである。従って、根来寺の系統を継ぐ「根来寺派」、「長谷寺派」、及び「智積院派」だけが、「上人を真言宗中興の祖」と呼び、「南無興教大師」と唱え、「興教大師像」を設置しているようだ。

次ページの図３には、本像台座側面にあった銘盤を示す。これらより、次の事項が判明した。

① 本像は、興教大師 850 年御遠忌記念で建立された。

② 本像は、多数の信徒の寄進により建立された。

③ 本像は、1991 年５月 19 日に設置された。

なお、本像の制作者名はどこにも表示が無かった。以上の資料など本像の概要は次の通りである。

覚鑁上人立像（板橋区）

設置場所：東京都板橋区徳丸 8-9-1　安楽寺本堂前

制作者：不明

設置時期：1991 年 5 月 19 日　興教大師 850 年御遠忌記念

設置経緯：真言宗智山派寺院の安楽寺は、紅梅山来迎院と号します。安楽寺の創建年代は、尊栄和尚が応永 3 年（1396）に創建、徳丸北野神社の別当を務めていたといいます。明治 7 年には板橋区内最古の私立紅梅学校（現紅梅小学校）が創立、明治 22 年まで当地にあったといいます。明治 29 年、徳丸の観音寺と合寺したといいます。豊島八十八ヶ所霊場 35 番札所です。

興教大師覚鑁（こうぎょうだいしかくばん、1095-1144）上人は真言宗中興の祖。新義真言宗の教義を根付かせ、現在の新義真言宗（根来寺派）、真言宗豊山派（長谷寺）、智山派（智積院）の基礎となった。嘉保２年(1095)現在の佐賀県鹿島市に誕生。13 歳の時入京。仁和寺に於いて得度。修学修行を積まれ 20 歳にして高野山に登嶺。弘法大師を崇敬、大師の歩まれた道を範として刻苦勉励日夜を分かたず精進研鑽、その学徳並ぶものなしと言われた。高野山を再興し、大師教学を振興した功績は誠に大。根来山に於いて 49 歳を以って入滅。1690 年、東山天皇より興数大師と諡名賜る。

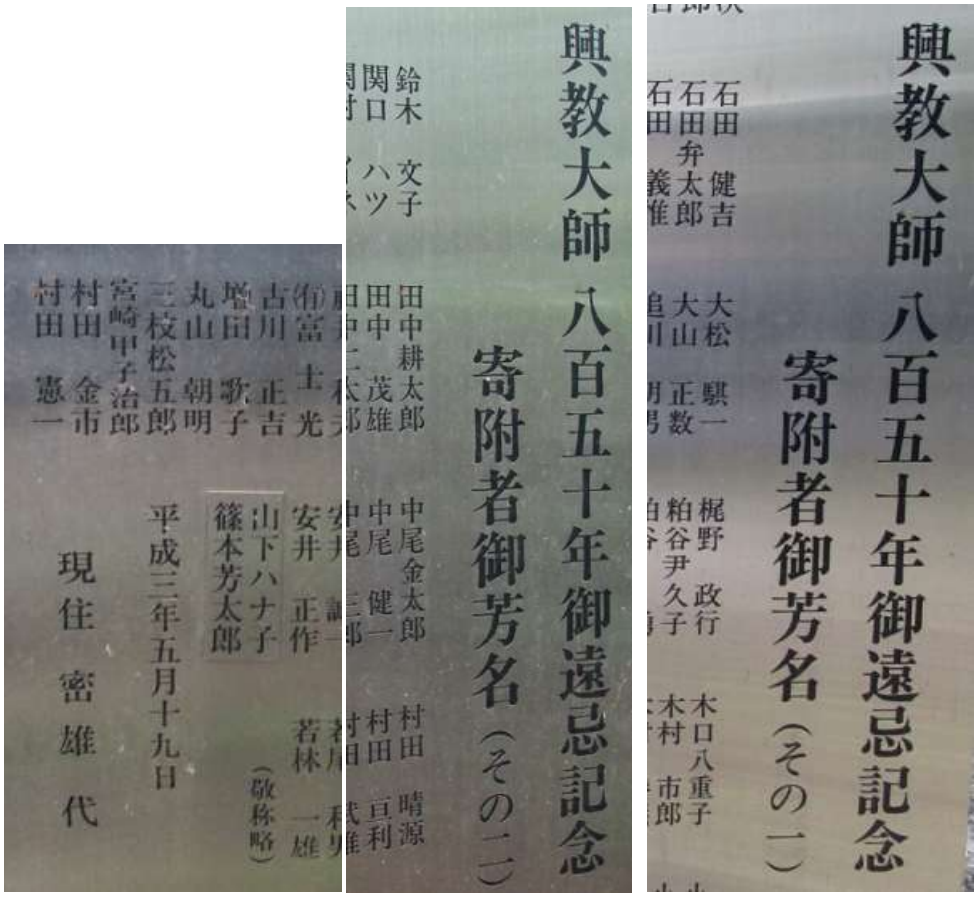

図３．興教大師像の台座に貼付された寄付者の名簿

（３）西東京市総持寺の覚鑁上人像

関東地方には覚鑁上人像が沢山あり、その中で自宅から近い２基を選んで、5 月 5 日に探索に行った。最初は西東京市総持寺の覚鑁上人像（８）のサイト/2）、次は東大和市円乗院の覚鑁上人像（９）のサイト/6）であった。先ず、総持寺（東京都西東京市田無町 3-8-12、以後は本寺と書く）の上人像を紹介する。本寺は西武新宿線の田無駅前にある。次ページの図４上に駅周辺図を示す。

図４.

上：西武新宿線の田無駅周辺地図、

下：総持寺の山門とケヤキの大樹。

図４上に示すように、田無駅北口から青梅街道に出ると、徒歩約 10 分で本寺の山門に到着した。その写真を図４下に示す。山門の向こうには、当寺名物のケヤキの大樹が見えた。この大樹の根本に「妙見堂」があり、その前に立像と座像が１基づつ設置されていた。その写真を次ページの図５上に示す。（本文は８ページへ）

図５．上：妙見堂前の弘法大師像と覚鑁上人像、下：覚鑁上人像。

図５上には、妙見堂前の右側に弘法大師像が、左側に覚鑁上人像が設置されていた。ここでも、弘法大師像の紹介は省略する。図５下には覚鑁上人像を示す。本像の台座正面には、図６上で示すような題字があった。それには、単に「興教大師」と書かれていた。台座背面には、本像の納主の名前と時期が記載されていた。本像の制作者の氏名はどこにも掲示されていなかった。

図６．上：本像台座正面の題字、下：台座背面の納主名。

本寺の略歴は、10）のサイト/1 に記載されている。その内容は、「覚鑁上人座像（西東京市）」欄に記載する。以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。

覚鑁上人座像（西東京市）

設置場所：東京都西東京市田無町 3-8-12　総持寺妙見堂前

制作者：不明

設置時期：1994 年 11 月 13 日　興教大師 850 年御遠忌記念

納主：田無市西原町　下田忠雄・明子

設置経緯：真言宗智山派寺院の総持寺は、田無山と号します。総持寺の創建年代は不詳ですが、元和年間（1615～23）に法印権大僧都俊栄和尚が谷戸に法界山西光寺として創建、慶安年間（1648～51）当地へ移転したと伝えられます。江戸時代には尉殿権現社（現田無神社）の別当寺を勤めていました。明治維新後、近隣の密蔵院・観音寺と合併、田無山総

持寺と改称しました。関東三十六不動 10 番、多摩八十八ヶ所 33 番です。興教大師覚鑁上人の略歴は覚鑁上人立像（板橋区）欄と同じ。

ここで、本稿の容量は限界に近づいてしまった。従って、総持寺境内の紹介と東大和市円乗院の覚鑁上人の紹介は、続報に記載する。

続報の URL：http://masaniwa.web.fc2.com/RW235b.pdf

参考資料

１）のサイト：https://douzou.guidebook.jp/

２）のサイト：http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf

３）のサイト：https://5931bus.com/files/topics/1006_ext_03_4.pdf

４）のサイト：https://tesshow.jp/itabashi/temple_tokumaru_anrak.html

５）のサイト：https://ukima.info/feature/kogyodaisi/kogyodaisi.htm

６）のサイト：http://www.buzan.or.jp/shingonshu_buzan/kogyodaishi/

７）のサイト：https://syofukuin.tokyo/kakuban.html

８）のサイト：https://www.skylarktimes.com/?p=20762

９）のサイト：https://higashiyamato.net/higashiyamatonorekishi/1516

10）のサイト：
https://tesshow.jp/tama/ekurumentokyo/temple_ntokyo_sojiji.html